

■開設年度		■開講部局	
2011		共通教育	
■科目名			
国際平和と有徳			
■英語科目名			
international peace and righteous			
■前後期		■開講区分	
後期		毎週	
■科目形態		講義	
■単位数		■大分類（科目）	
2		教養科目	
■中分類（分野）		分野2	
■受講学部学科			
全			
■担当教員		■担当教員所属	
神田嘉延		稲盛アカデミー	
■連絡先（TEL）		■連絡先（MAIL）	
099-285-3755		k6820452@kadai.jp	
■オフィスアワー（授業時間外の対応）			
水曜日10時30分から12時まで神田研究室			
■共同担当教員			
田中 弘允			
■キーワード1		■キーワード2	
視野・判断力・探求能力			
■授業概要（目的・内容・方法）			
国際平和を有徳という視点から授業を行うことを目的とする。平和思想について社会哲学の視点から問題提起をし、具体的に、平和活動や国際理解教育、異文化理解教育、持続可能な開発教育の実践を紹介しながら平和と富国有徳を考えてもらう。この際に国際的な人類共通の合意点としてのユネスコの思想の思想を重点に考えてもらう。また、平和と富国有徳の思想を日本の思想史のなかから問題提起して、日本の伝統的な平和思想を考える。学生に平和と有徳を考えてもらううえで、双方向方式による討論方式や学生自らが参加しながら、また、平和のかたりべに登場してもらう授業方式を工夫して行う。			
■学習目標			
本講義は、学生に平和問題を有徳という視点から考えてもらうことを学習目標とする。個々の学生が国際平和思想、異文化理解、開発教育、持続可能な開発（j ESD）、富国有徳などの多様な価値と多様な文化を認め合い、共に生きていくことを考えていく能力を形成することを教育の達成とする。			
■授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）			
1. 授業の導入として、国際平和と有徳の課題についての問題提起と学生自身の問題意識の確認 2-5. 平和思想 6-7. ユネスコの平和活動・国際理解活動・持続可能な開発の活動について 8-9. 平和・国際理解・異文化理解・南北問題などの貧困など 10-11. アジアから平和と異文化・価値観の多様性に対する寛容性をどうするか ーベトナムの歴史と現状から考える 12-15. 日本における平和継承としてのかたりべの役割			
■受講要件		■成績の評価基準	
なし		考える力がどれだけ形成されているのか40%、小レポート（出席も兼ねる）60%	
■教科書		■参考書	
なし		授業中に明示する。	
■その他			